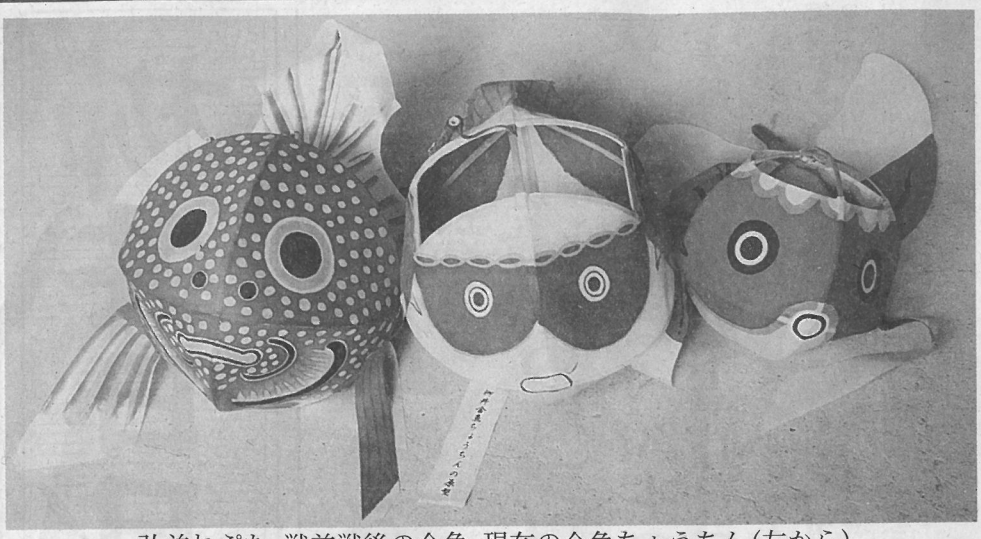
柳井金魚ちょうちんの歴史 ⑤

柳井市社会教育指導員 松島幸夫



弘前ねぷた、戦前戦後の金魚、現在の金魚ちょうちん(左から)

【⑥「金魚ちょうちん」の変化】

柳井川の三角橋近くで開業していた佐藤医院に、古い玩具が多く保存されていた。その中に「柳井の古い金魚ちょうちん」があった。伝来当初には立ち上がっていた尾びれが、垂れ下がった段階のものである。佐藤医院保管の「金魚ちょうちん」と現在のものとを比べると、所々に違いが認められる。相違点を列挙すると、

①眼を小さく三重に描いていたが、現在では大きな二重眼に変わった。

②口は横長楕円に描いていたが、円形になった。

③横に付けたひれは、長くなった。

④鱗は赤色で写実的に表現していたが、今では黒色での簡単な格子模様に替わった。

⑤尾びれの赤線が黒線に替わり、尾びれ先端の白い部分が伸びて長く垂れ下がった。

⑥腹部の底には灯火のための蝋燭立てが付いていたが、現在ではなくなった。

⑦蝋燭が出し入れしやすいよう、また着火がしやすいように、背部の穴は大きな長方形であったが、現在は小さな丸形の穴に変わっている。

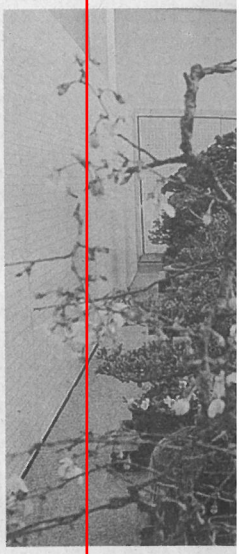
⑧「ちょうちん」の形を支える竹ひごの組み合わせは、横方向に前後2本の竹ひごを回して腹部に蝋燭立てを強く固定していたが、現在は蝋燭立てを設置しないため、2本から1本に減らしている。

それらの所々の変化を2点に集約すると、1点は蝋燭立てをなくして、電飾照明にしていること。もう1点は、製作しやすいように簡素にし、見た目を可愛くしている点である。こうして愛嬌のある表情になり、人気が高まっている。

佐藤医院に保管されていた上記の「金魚ちょうちん」は現在、柳井市しらかべ学遊館に保管されている。その「金魚ちょうちん」は亀岡町で看板業を営んでいた宮本定二氏か息子の美佐男氏の作品であろうと言われている。

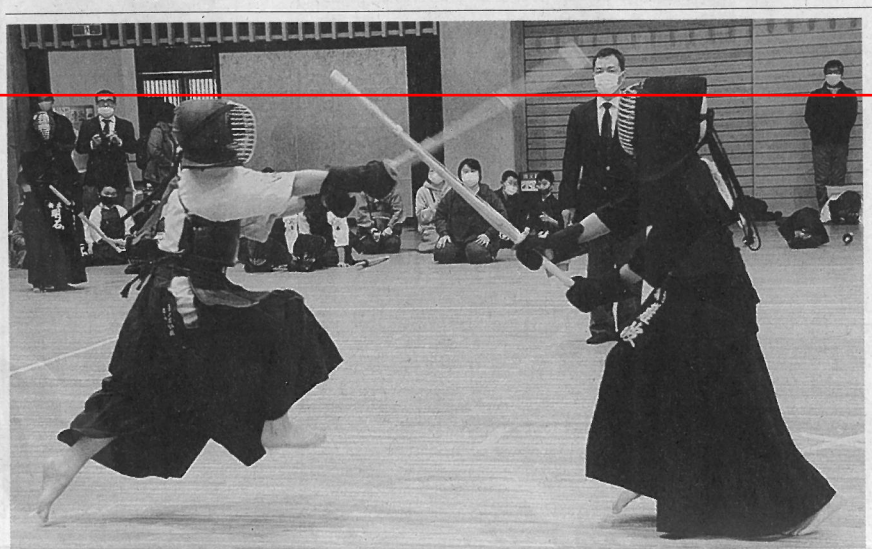
【⑦100年前の「柳井金魚ちょうちん」の再現】

柳井には第二次世界大戦前後の作品が数点遺存しているものの、劣化が激しく、正確に再現制作をしておく必要があった。達者な職人がいる今を逃してはならないと、令和2年に柳井シルバー人材センター金魚提灯班長の本井秀夫氏に制作を依頼した。氏は型紙づくりから始め、寸分違わない再現をされた。



布施町盆栽愛好家「千草会」に入会する柳井市と平生町の女性8人が、坪庭風にした草物盆栽合同展を開き、注目を集めた。

コロナで今年度最初で最後の大会



柳井化学武道館(市武道館)で行われ、ちびっ子剣士たちの熱い戦いが繰り広げられた。

開会式では、河野会長が「新型コロナの影響で剣道連盟主催の今年度の大会は今回が最初で最後となる。自粛期間中は活動ができないこともあったが、今日は練習成果を発揮し、思い出残る大会にしてほしい」とあいさつ。

コロナ禍の中、ちびっ子剣士たちは、マスクとフェイスシールドを着用した上に面をつけて試合に出場。息苦しい中でも竹刀に気合いを入れて激闘を繰り広げていた。

移った。大会には、柳井市と平生町の4団体に所属する小学生26人が出場し、級別の個人戦4部門と団体戦2部門で熱戦を展開。

▼3・4級の部=①邊陽生(新庄少年剣会)②明石悠弥(新庄少年剣会)③八木七海(同)④中村和愛(平生少年剣)

▼6級の部=①梅田駿(同)②木村若菜(平生少年剣)③山本蒼昊(同)

▼2級の部=①仁郎(新庄少年剣)②八木七海(同)

【団体戦】

▼低学年の部=①柳井少年剣友会②平生少年剣スポ少A③平生少年剣スポ少B

▼高学年の部=①柳井少年剣友会B②柳井少年剣友会A③柳井少年剣友会C

(写真は激闘を繰り広げたちびっ子剣士たち)

山口県立美術館で野口哲哉展

山口県立美術館(山口市亀山町)は、6月13日から6月13日まで、野口哲哉展〜this not a samurai〜を催す。

野口さん(1